

## 0 理念・目的・教育目標

### 進捗状況報告

「教育目標および人材育成の目標」に記された「具体的な社会や世界の問題を発見し・・・解決できる人材の育成」に関する具体的な方策については、従来の通常カリキュラム及び実習科目においてより一層の充実を図ることが課題となっている。一つの新しい方策としては、2007年度より卒業生の生涯学習として毎年行ってきた「教職セミナー」を、新たなコンセプトの下で「神学セミナー」と名称を変更し、内容的にも神学研究科の学生が共同でプログラムの立案段階から積極的に参加して、準備していくプログラムとした。教会の現場で活躍している教職（牧師・伝道師）や信徒とともに、今日の社会、また世界から問いかけられている問題に関しても共同で模索しつつ論議している。

なお、2008年度より2コース制（キリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コース）におけるカリキュラムが施行され、入学者の受け入れを開始している。取得する学位については両コースとも現行の「修士（神学）」で対応できるとの判断に至った。

### 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2008年度進捗状況報告書「6.2教育研究指導のあり方【6.2.4研究指導等（学生の研究活動への支援を含む）】」に『前期課程、後期課程共に、「学位取得までのプロセス」を作成し学生に公開した』とあるので、参照いただきたい。

### 学内第三者評価

昨年度に較べて改善に格段の進捗が見られる。より一層の大学院の充実と質の高い修了生を社会に送り出せるように、教員と院生の一丸となった努力が期待される。

2007年度、学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述に記された「2008年度入学生を対象に、学位取得までのプロセスを明確化し提示できるよう、研究科委員会で検討を進めている」とあるが、この点についての記述が求められる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。

昨年度、特別委員から指摘のあった「具体的な社会や世界の問題を発見し、・・・解決できる人材の育成」に関する具体的な方策については、「神学セミナー」において、学生がプログラムの立案段階から積極的に参加し、今日の社会また世界から問いかけられている問題に取り組むなど、前向きな工夫が見られる。2008年度からの2コース制において、さらに、カリキュラムの充実が図られることが期待される。